

## 第5節 化学物質による環境リスクの低減

私たちが身近に使用しているプラスチック製品，化学繊維衣料，医薬品，洗剤，塗料，殺虫剤などは，様々な化学物質を利用して作られています。しかしながら，化学物質の中には，人の健康や生態系に有害な影響をもたらす可能性があると考えられているものがあり，不適正な管理や事故で大気，水，土壌などの環境に排出されることによる環境汚染への懸念が広がっています。

中でも，ダイオキシン類や内分泌かく乱化学物質（いわゆる環境ホルモン）は，人の生命・健康に重大な影響を与え，世代を超えた深刻な影響をもたらすおそれのある物質とされています。

### 1 ダイオキシン類対策

#### 1. 環境基準

ダイオキシン類に関しては，「ダイオキシン類対策特別措置法」により，ダイオキシン類による大気の汚染，水質の汚濁，土壌の汚染に関する環境基準が定められています。

ダイオキシン類による汚染に係る環境基準

調査項目	環境基準値
大気	0.6pg-TEQ/m <sup>3</sup> (年間平均値)
公共用水域 (河川 海域， 地下水)	水質 1pg-TEQ/L (年間平均値)
	底質 150pg-TEQ/g
土壌	1,000pg-TEQ/g

#### 2. 環境汚染の状況

海田東公民館（海田町）で大気調査結果が環境基準値を超過しましたが，その他は全ての地点で環境基準を達成しています。なお，環境基準を超過した海田東公民館について，周辺の工場・事業場に対するダイオキシン類削減の立入指導及び海田町民へのごみ減量化の啓発等を実施した後，同地点及び周辺地域の詳細調査を実施したところ，全ての地点で環境基準を下回りました。

ダイオキシン類環境汚染状況調査結果（平成13年度）

調査項目	調査地点数	環境基準値を下回った地点数	濃度範囲	
大気	33	32	0.031～1.1pg-TEQ/m <sup>3</sup>	
公共用水域 (河川 海域， 地下水)	水質	45	45	0.0084～0.71pg-TEQ/L
	底質	18	18	0.052～20pg-TEQ/g
土壌	72	72	0.0014～20pg-TEQ/g	

注)海田東公民館周辺地域の大气詳細調査を含む。

県環境対策室・広島市・福山市・呉市調べ

#### 3. ダイオキシン類汚染対策の主な取組

##### (1) 発生源対策

廃棄物焼却炉を設置する事業場等に対して立入検査を実施し，排出基準の遵守や自主測定の実施を指導しています。

##### (2) 広報・啓発

県民に対し，ごみの発生抑制，分別排出，リサイクル等について広報・啓発を実施しています。

### 2 環境ホルモン等化学物質対策

#### 1. 現状

##### (1) 環境ホルモン

内分泌かく乱化学物質（いわゆる環境ホルモン）による環境汚染について，その実態を把握するため，河川8地点，海域5地点で27物質を調査した結果，その検出状況は全国調査結果の範囲内となっています。

## (2) その他の有害化学物質

発ガン性などが指摘されている化学物質について、大気12地点、河川14地点、地下水64地点においてモニタリングを実施しています。

## 2. 環境ホルモン等化学物質対策の主な取組

### PRTRの推進

化学物質の排出量などが適切に届出（PRTR制度）されるよう啓発・指導を行うほか、事業者が自主的に化学物質の管理・低減を図れるよう自主管理マニュアルの作成指導を行っています。

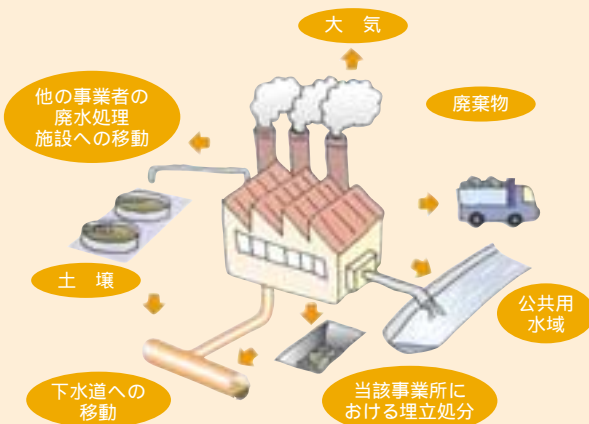
また、届出情報の公表に伴い、事業者と住民の相互理解（リスクコミュニケーション）が大切となることから、これが円滑に推進されるよう取り組んでいます。



### PRTR（環境汚染物質排出・移動登録）とは

化学物質を取り扱う全国の業者が、1年間にどのような物質をどれだけ環境中に排出したか、あるいは廃棄物としてどれだけ移動したかを国に届けます。国はそれを推計し、毎年公表します。

また、家庭や農地、自動車などから排出される化学物質の量も国が推計し、事業者からの届出とあわせて公表することになっています。



## ? 環境三二知識

環境ホルモンとは.....

平成8年に刊行された「Our Stolen Future」(邦訳「奪われし未来」著者：シーア・コルボーン等)という本では、DDT、クロルデン、ノニルフェノール等の化学物質が人の健康状態(男性の精子数減少、女性の乳がん罹患率の上昇)や、野生生物への影響(ワニの生殖器の奇形、ニジマス等の魚類の雌性化等)をもたらしている可能性について指摘がされました。

このように、内分泌系(ホルモン)に影響を及ぼすことにより、生体に障害や有害な影響を起こす外因性の化学物質を、内分泌かく乱化学物質と言い、一般には環境ホルモンと呼ばれています。

環境ホルモンについては、その有害性等が未解明であるため、県としても、関係府省と連携して、汚染実態の把握等の調査を行っています。

また、国際的に協調した調査研究も実施されており、平成14年11月には、広島市の「広島国際会議場」で「第5回内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」が環境省主催で開催されます。